ひなどり

園だより　９月号
令和５年９月４日
新潟市立新津第三幼稚園

「立ち位置が変わってみると」

園長　　川合　千尋

今月は「中秋の名月」が見られます。今年は，9 月 29 日だそうです。以前にも書きましたが，月に関心をもった昔の人は，さらに次の日も見事な月を見ようとして月の出を待っていたそうです。満月の次を十六夜（いざよい）と呼び（いざようはためらうという意味）さらに月の日は遅く出てくるので，立って待っている「立待月」次の日はさらに遅いので据わって待つ「居待月」次は寝て待つ「寝待月」と呼ばれたそうです。そんな話を聞くと、私も月の形の変化に興味を持って，今日は〇〇の月だなと毎晩月を見上げていました。

私もそんな風に毎晩少しずつ形を変化させる月を見上げていた頃，随分と遠い昔の話になりますが，新婚旅行で初めての海外に行きました。その時の旅行先の夜，月を見上げてとても驚いたことがあります。昨晩日本で見た月の形とまるで違っていたのです。左右がひっくり返っていたのです。一瞬混乱しましたが，あっそうか，南半球にいるんだなと思い返しました。一晩で北半球から南半球の移動したことを忘れていました。びっくりしましたが，見る場所が変われば月の形も違って見えることをとても面白く感じました。

そんなことを考えていると，子どもたちも立ち位置を変えてみれば，どんどん変わって見えるのだなと思いました。生まれた時から，幼稚園や小学校に入学するまでは，その子の育ちだけを見ていたのに，集団生活の様子を目にすると，どうしても他の子と比べてしまいます。「うちの子は，他の子と比べて落ち着きがないなあ」とか「うちの子は，臆病で何にもやろうとしないなあ」などなど。でも見方を変えれば，「うちの子は，いろいろなことに興味を持って，積極的に働きかける子だな。」「うちの子は，先のことをよく考えて慎重に行動する子だな。」ということになります。他にも人と比べるとその違いが様々目についてくると思います。でも，それが個性として輝くには，私たち大人がそれを価値付けてやる必要があります。そのことをしっかりと踏まえて，子どもたちをいろいろな立ち位置でいろいろな見方でもって見ていきたいと感じています。